

井手を基盤とした景観形成に関する一考察

Study on the landscape-formation based on irrigation canal network.

熊本大学工学部環境システム工学科

松元 里紗

1. はじめに

熊本県には井手と呼ばれる農業用水路が多く存在する。これらは、近世期に築造されたものが大半であり、土木の神様と言われている加藤清正が計画・築造したものも少なくない。その為、井手は歴史的に価値のある土木遺構であり、現在も様々な特産品を生産し、熊本県の農業をも支えている。井手は灌漑用水であるとともに、集落の生活、防火、親水、環境保全など多面的機能を有する。現在、井手沿川の宅地化が進んでおり、井手は市街地の癒し空間としての需要と地域生活との乖離という2つの課題を抱えている。本研究は、井手の景観形成要因に着目し、井手とコミュニティの密接さに裏づけされた生活景の重要性を述べるものである。

2. 地域との関連からみた井手の分類と現状

熊本県は日本有数の火山である阿蘇を有し、地下水の豊富な都市である。その代表的な水辺として、4大河川の菊池川・白川・緑川・球磨川から引水している農業用水が存在する。熊本県下の井手の特徴を整理し、井手を市街地型、郊外都市型、農村集落型に分類した。

3. 大井手沿川における水辺空間の形成

課題の多い市街地型：大井手沿川の水辺空間形成を明らかにするため、市制、白川の架橋や改修、大井手の改修、沿川の様々な主体（行政・耕作者・地域住民：図1参照）の活動の観点から歴史を整理した。

また近世、明治初期の絵図、明治中期以降の6枚の地形図を基に地域の土地利用の変遷など水辺空間形成史を示した。



図1 渡鹿堰土地改良区区域図

4. 地域住民による景観形成に関する分析

地域の風土に根ざした景観には、単に自然環境（水辺空間）のみならず地域住民の生活や取り組みなど、人為が反映されている。大井手沿川の景観形成には、様々なコミュニティが関与しているが、ここでは特に地域住民の果たす役割について述べる。

(1) 各主体の景観形成における役割の整理

大井手沿川における景観形成の主体は、次のような役割になっている。行政は堰や水門、水路などの水利施設の維持管理と改修を行っている。実際の活動は、1992年（平成4）から1995年（平成7）の間に行われた大井手地区水環境整備事業がある。これは、大井手沿川の「空間」に関わる活動である。耕作者は農業用水の管理を行っている。実際の活動は、通水時期の決定や流量調整がある。地域住民は沿川地域に住んでいる。実際の活動は、「大井手を守る会」による大井手清掃や川遊びがある。以上のことから、大井手沿川における景観形成は行政による「空間」の維持管理、耕作者による「用水」の管理、地域住民による「水辺活動」の上に成り立っている。

(2) 地域住民の活動史

地域らしい景観形成に寄与してきたと考えられる地域住民団体、大井手を守る会の沿革を整理した。

(3) 水辺利用意識に関する分析

「大井手を守る会」の活動を基に、地域住民の水辺利用意識を時代的・空間的分析を行った。（表1参照）。

表1 水辺利用意識の空間的特徴の変遷

			井手内部			水辺			陸		
生活環境改善期	1978年	昭和53						ホタル			
	1979年	昭和54						タ			
	1980年	昭和55						ル			
	1981年	昭和56						鑑			
	1982年	昭和57						営			
	1983年	昭和58						会			
大井手認識期	1984年	昭和59									
	1985年	昭和60									
	1986年	昭和61									
	1987年	昭和62									
	1988年	昭和63									
	1989年	平成元									
	1990年	平成2	自然			清掃					
	1991年	平成3	環			活動					
	1992年	平成4	境					語る	盆	ごみ	初
	1993年	平成5	観					る	踊り	みす	詣で
地域資源期	1994年	平成6	香					会	参加	指導	
	1995年	平成7									
	1996年	平成8	大井手								
	1997年	平成9									
	1998年	平成10									
	1999年	平成11	川								
	2000年	平成12	遊								
	2001年	平成13	び								
	2002年	平成14									
	2003年	平成15									もち
	2004年	平成16	自然								つ
	2005年	平成17	観								き
	2006年	平成18	察								大
	2007年	平成19	会								会

5. おわり

井手は熊本においては地域風土に根ざした水辺である。水辺空間は沿川の土地利用者が入れ替わりながら形成されてきた。地域住民の景観形成あるいはその保全を目的としない活動も、地域の風土を反映した生きられる空間つまり生活景を形成したことが分かった。